

2002年10月

[1] 平成14年度日本IFTtoMM会議総会の報告

平成14年6月28日(金)、工学院大学新宿校舎において総会が開かれ、平成13年度の事業報告、収支決算報告および監査報告、平成14年度の事業計画および収支予算の審議ならびに承認が行われた。主な議事、決定内容の詳細は下記の通りである。

． 平成13年度事業報告

1． 国際活動

- (1) 執行委員会 (2001年7月6日～7日, Milano, Italy)
- (2) World Congress(2003年天津)への投稿勧誘及び取りまとめ

2．国内活動

- (1) 実行委員会を2回開催(第111回～第112回 2001年6月, 2002年3月)
- (2) 平成13年度総会を開催(2001年6月22日、工学院大学新宿校舎)
- (3) 第7回日本IFTtoMM会議シンポジウムを開催(2001年6月22日、工学院大学新宿校舎)

3． 会員の状況 (2002年4月1日現在)

個人会員： 100名

賛助会員： 5団体

(株)小笠原プレシジョンラボラトリー、太陽誘電(株)
(財)機械振興協会、(株)東芝、日機装(株)

. 2001年度収支決算報告（平成13年4月1日～平成14年3月31日）

1. 一般会計

収入の部

（単位：円）

項 目	予 算	決 算	備 考
会費収入（個人）	300,000	246,000	2000 3,000 × 3 2001 3,000 × 78 2002 3,000 × 1
会費収入（賛助）	250,000	200,000	2001 50,000 × 4
雑収入		1,318	
小 計	550,000	447,318	
前期繰越金	640,402	640,402	
合 計	1,190,402	1,087,720	

支出の部

（単位：円）

項 目	予 算	決 算	備 考
[国際活動費]	<u>246,400</u>	<u>274,400</u>	2002年度会費
IFTOMM年会費	240,000	267,400	US\$ 2,000.00 × 133.70
送金手数料	5,400	4,500	
現地支払銀行手数料	1,000	2,500	
[国内活動費]	<u>707,000</u>	<u>309,432</u>	
会議費	50,000	17,850	実行委員会費用
講演会費	250,000	114,500	シンポジウム費用
印刷通信費	300,000	63,987	コピー、切手、宅急便等
事務委託費	100,000	100,000	年間
郵便振替費	7,000	6,550	
パンフレット印刷代	50,000	0	
予備費	50,000	6,545	文具等
	<u>47,500</u>	<u>38,000</u>	
[MMT誌費]	47,500	38,000	9,500 × 4 (2001Vol.36)
賛助会員購読料			(MMT誌会計へ繰入れ)
小 計	1,000,900	621,832	
次期繰越金	189,502	465,888	
合 計	1,190,402	1,087,720	

2. MMT誌会計

収入の部

(単位：円)

項目	予算	決算	備考
MMT誌購読料収入 個人	237,500	180,500	9,500 × 19 (2001 Vol.36)
賛助	47,500	38,000	9,500 × 4 (2001 Vol.36) (一般会計から繰入れ)
小計	285,000	218,500	
前期繰越金	143,058	143,058	
合計	428,058	361,558	

支出の部

(単位：円)

項目	予算	決算	備考
出版社への支払	285,000	242,174	VOL. 36 (2001) EUR 82.59 × 25名 × 117.29 = 2,064.75 × 117.29 (一冊単価：¥9,687)
通信費	6,000	6,000	
小計	291,000	248,174	
次期繰越金	137,058	113,384	
合計	428,058	361,558	

3. 準備金

- (1) 国際会議準備金 710,000
 (2) 国際交流活動準備金 400,000

合計 1,110,000

2001年度監査報告

剰余金処分案

平成14年3月31日

(単位：円)

1. 当期末処理分剰余金	579,272
1. 前期繰越剰余金	783,460
一般会計	640,402
MMT誌会計	143,058
2. 当期収益金	- 204,188
一般会計	- 174,514
MMT誌会計	- 29,674
2. 剰余金処理額	
1. 国際会議準備金	0
2. 国際交流活動等準備金	0
3. 次期繰越剰余金	579,272
一般会計	465,888
MMT誌会計	113,384

上記のとおり相違ありません。

平成13年4月

日本IFTtoMM会議
委員長 三浦 宏文
幹事代行 岩附 信行

上記の調査を遂げ、その正確であることを承認します。

監 事 人見 宣輝

． 2002年度事業計画案

1．国際活動

- (1) 11th World Congress (2003年8月18～21日, 天津, 中国)
- (2) 35th Executive Council (2002年7月5日～6日, Udine, Italy)
- (3) 14th CISM-IFTToMM Symposium on Robotics (2002年7月1日～4日, Italy)
- (4) The 6th International Conference on Mechatronics Technology (ICMT2002)
(2002年9月29日～10月3日)に協賛
- (5) The 6th Japan-France Mechatronics Congress / The 4th Asia-Europe
Mechatronics Congress (2003年9月9日～12日)に協賛

2．国内活動

- (1) 実行委員会を4回開催予定(2002年5月, 6月, 10月, 2003年3月)
- (2) 平成14年度総会を開催(2002年6月28日、工学院大学新宿校舎)
- (3) 第8回日本IFTToMM会議シンポジウムを開催(2002年6月28日、
工学院大学新宿校舎)
- (4) 日本IFTToMMニュースを年1回発行予定
- (5) 会員増強キャンペーンを行う
- (6) 日本IFTToMM会議のホームページを製作する

・2002年度収支予算案（平成14年4月1日～平成15年3月31日）

1. 一般会計

収入の部

（単位：円）

項 目	予 算	備 考
会費収入（個人）	300,000	2001 3,000 × 100 (名)
会費収入（賛助）	250,000	2001 50,000 × 5 (社)
小 計	550,000	
前期繰越金	465,888	
合 計	1,015,888	

支出の部

（単位：円）

項 目	予 算	備 考
[国際活動費]	<u>266,400</u>	
IFTtoMM 年会費	260,000	2003 US\$ 2,000 (@130)
送金手数料	5,400	
現地支払銀行手数料	1,000	
[国内活動費]	<u>377,000</u>	
会議費	20,000	実行委員会費用
講演会費	150,000	シンポジウム費用
印刷通信費	60,000	コピー、切手、宅急便等
事務委託費	100,000	年間
パンフレット印刷代	10,000	入会の榮
郵便振替費	7,000	
予備費(雑費)	30,000	文具等
[MMT 誌費]	<u>50,000</u>	10,000 × 5 (2002Vol. 37)
賛助会員購読料	50,000	(MMT誌会計へ繰入れ)
国際会議準備金積立	0	
小 計	693,400	
次期繰越金	322,488	
合 計	1,015,888	

2. MMT誌会計

収入の部

(単位：円)

項目	予算	備考
[MMT誌購読料収入]		
個人	190,000	VOL. 37 (2002) 10,000 × 19
賛助	50,000	10,000 × 5 (一般会計から繰入れ)
小計	240,000	
前期繰越金	113,384	
合計	353,384	

支出の部

(単位：円)

項目	予算	備考
出版社への支払	240,000	VOL. 37 (2002) 10,000 × 24
送金手数料	6,000	
小計	246,000	
次期繰越金	107,384	
合計	353,384	

3. 準備金

- (1) 国際会議準備金 710,000
 (2) 国際交流活動準備金 400,000

合計 1,110,000

[2] 第8回日本IFToMM会議シンポジウムの報告

総会に先立ち、下記の要領で第8回のシンポジウムが開催された。前回の第7回に続くもので、会員の自主的参加によるThe Theory of Machines and Mechanismsに関する講演で、討論重視の方針も踏襲された。発表件数も15件を4セッションに分け、1件につき発表時間15分、討論10分で行われた。シンポジウムの参加者は約50名で、講演前刷集が参加者と会員に無料で配布された。

第8回日本IFToMM会議シンポジウムプログラム

日 時： 2002年6月28日(金) 9:30~17:40

会 場： 工学院大学新宿校舎28階第4会議室

発表テーマ：

セッション 「群ロボット・ヒューマノイドロボット」座長 齋藤之男(東京電機大)

1. 知能移動ロボットを用いた集団行動に関する研究
棕野祐介(工学院大院), 土井伸吾, 三上洋範, 高信英明, 三浦宏文
2. 構造物を構築する群ロボットの研究
伊能教夫(東工大院), 小林広和, 小関道彦
3. 視覚・聴覚系を有する2足ヒューマノイドと人間とのインタラクション
小椋優(早大院), 金島義治(IHI), 林憲玉(神奈川工大), 高西淳夫(早大院)
4. 開閉口訓練ロボットによる側方訓練の実現
那須俊英(早大院), 秋月徹, 壺井宏明, 高西淳夫, 沖野晃久,
高信英明(工学院大院), 大西正俊(山梨医科大), 大月佳代子

セッション 「製品開発とダイナミクス」座長 岩附信行(東工大院)

5. 高次スペクトルを用いた非線形減衰振動系の同定
松本宏行(ものづくり大), 大石久巳(工学院大), 山川新二
6. 広角Vバンクを有するV型10気筒エンジンの振動解析
山内孝宏(東北大院), 井上克己, 大石久己(工学院大)
7. 電気スクータの開発と生産に関する課題
小出 強志(東京アール・アンド・デー)

セッション 「多自由度機構」座長 大石久巳(工学院大)

8. 冗長複ループ空間マニピュレータの特異姿勢解析について
岩附信行(東工大院), 高村 徹, 林 巖, 森川広一, 神保勝久
9. ジグソーブロックスライドと閉リンク構造を用いた小型多自由度機構
千代田真吾(東大院), 岡田昌史, 中村仁彦
10. 直進対偶駆動形3自由度空間パラレルメカニズムの運動特性解析
渡辺克巳(山形大), 南後 淳
11. 転がり・滑り接触を利用した多指ハンドの運動計画
八島真人(防衛大), 山口秀谷

セッション 「福祉機器」座長 伊能教夫(東工大院)

12. X線を用いた股関節部計測と形状評価
音琴 浩(東京電機大), 齋藤之男
13. マイコン制御による新しい電動ハンドの実用化研究
齋藤之男(東京電機大), 音琴 浩, 大島 徹(富山県立大),
東原孝典(高松 義肢製作所), 大西謙吾(大分大),
久保 茂(東京都福祉機器総合センター), 内田昭登(大橋製作所)
14. ウェアラブル心拍計の開発と試作
齋藤 聡(工学院大), 高信英明, 坪井央樹, 三浦宏文, 苗村潔(東京女子医大)
15. 歩行椅子用パワーアシスト駆動系の開発
樋口 勝(東工大院), 武田行生, 山田貴詩(セコム), 松本貴弘(東工大院),
舟橋宏明(芝工大)

[3] IFToMM関連の会議・講演会の報告

国外

- (1) 11th World Congress (2003年8月18～21日, 天津, 中国)
- (2) 35th Executive Council (2002年7月5日～6日, Udine, Italy)
- (3) 14th CISM-IFTToMM Symposium on Robotics (2002年7月1日～4日, Italy)

国内

- (1) 実行委員会を4回開催予定(2002年5月, 6月, 10月, 2003年3月)
- (2) 平成14年度総会を開催(2002年6月28日、工学院大学新宿校舎)
- (3) 第8回日本IFTToMM会議シンポジウムを開催(2002年6月28日、工学院大学新宿校舎)

[4] 実行委員会からのお知らせ

(1) MMT誌の個人購読料について

Vol.36(2001)の個人購読料が為替レート変動のため、出版元からの請求金額、通信費共で単価が9,927円になったため、Vol.37(2002)の請求金額を10,000円といたします。ご了承ください。

[5] コーヒーブレイク

絵画： 作 人見 宣輝 (日本IFTToMM会議 実行委員)



2002年度日本 IFToMM 会議実行委員会委員

委員長	三浦 宏文	工学院大学
副委員長	舟橋 宏明 吉本 堅一	芝浦工業大学 防衛大学校
委員	板生 清 伊能 教夫 岩附 信行 内山 勝 大石 久己 大輪 武司 笠原 章裕 梶谷 誠 加藤 正名 川島 忠雄 木村 康治 久保 愛三 五嶋 裕之 小西 義昭 斉藤 之男 高西 淳夫 高増 潔 谷江 和雄 寺田 英嗣 中田 毅 中村 仁彦 南後 淳 林 輝 樋口 俊郎 福田 敏男 北條 春夫 堀 幸夫 森田 信義 八島 真人 山川 新二 渡辺 克己	東京大学 東京工業大学 東京工業大学 東北大学 工学院大学 (株)東芝 (株)東芝 電気通信大学 秋田県立大学 東京電機大学 東京工業大学 京都大学 (財)機械振興協会 日機装(株) 東京電機大学 早稲田大学 東京大学 産業技術総合研究所 山梨大学 東京電機大学 東京大学 山形大学 桐蔭学園横浜大学 東京大学 名古屋大学 東京工業大学 金沢工業大学 静岡大学 防衛大学校 工学院大学 山形大学
監事	人見 宣輝	高エネルギー加速器研究機構